

K A W A K A M I D A M 2006

# 川上ダム通信 7月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所  
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661(代)  
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

## 「川上ダムの役割をもっと地域に知らせてほしい」との強い声 ～伊賀市自治会連合会への事業説明会～

7月13日(木)に、伊賀市自治会連合会への川上ダム事業説明を行いました。自治会連合会への事業説明や現地視察の開催は伊賀市の誕生後はじめてのことです。自治会連合会は伊賀市全域の自治会の連合組織で、今回は自治会長ほか役員の方々総勢29名が参加されました。

当日は恒吉所長から、川上ダム事業の必要性と現況および今年度の課題についての説明を行い、あわせて皆様にはダム建設予定地やオオサンショウウオ保護池、道路工事現場を視察していただきました。視察ではダム事業や道路工事等について積極的な質問等もあり、ダム事業への理解を深めていただくことができました。今後とも地域の皆様のご理解・ご協力を得て、川上ダム建設事業の推進を図ってまいります。

【工務課長 北牧正之】



左写真:事業説明の様子

右写真:川上ダム建設予定地での説明の様子

## ～川上ダム建設のいま～地元TVで放映

6月29日(木)に名張市のケーブルTVの『名張・青山ニュース』にて、川上ダムとハーモニー・フォレストが取り上げられました。

川上ダム建設所から『現状と課題』について説明を行い、川上ダム早期完成の必要性を訴えました。また、伊賀市青山支所から川上ダム周辺整備事業の一貫で建設中の森林公園「ハーモニー・フォレスト」の一部オープンについて紹介し、多くの方の利用を呼びかけました。

【調査設計課長 大原基秀】



『現状と課題』を説明する川上ダム職員  
(ケーブルテレビ・アドバンスコープ「名張・青山ニュース」より)

# 上野農高生が川上ダム建設所で実習

7月24日(月)～28日(金)の5日間、川上ダム建設所に上野農業高校から環境土木科2年生の石倉君、谷口君の2名が実習生として来ました。これは、我々の「技術力」を学校教育の一環として活用して頂ければとの思いから、業務実習生の受け入れを行ったものです。

実習内容は、ダム本体のコンクリートの材料として近くの山から採取する岩石(骨材といいます)の量がどれくらいあるかを図面を描いて計算するというものです。この他に、川上ダム建設予定地に生息する国の天然記念物であるオオサンショウウオの保護施設の見学やここでふ化したオオサンショウウオ(幼生)の定期測定の手伝い、ダムの地質調査用トンネルに入り、地質の勉強など、短い時間でしたが様々な実習をしてもらいました。



実習風景

【調査設計課 中原忠義】

## 実習生にインタビュー

### Q.実習を終えた感想は？

谷口君：最初、実習では現場での労働をするものだと思っていて、室内で頭を使う作業をするものだとは思っていませんでした。

石倉君：川上ダムに来て、道路の付け替えや鳥の巣の移動など、ダムを造る以外にもいろいろな仕事があるのだと初めて知りました。難しい仕事をさせてもらい、ここで教わったことを社会で活かしていきたいと思います。

### Q.実習での一番の思い出は？

谷口君：普段見たことのないオオサンショウウオの測定がおもしろかったです。

石倉君：オオサンショウウオは皮膚が傷つきやすいため、丁寧に扱うのが難しかったです。



石倉君



谷口君

## 4社を優良工事請負者表彰!!

7月4日(火)「平成18年度 優良工事請負者表彰式」を行いました。これは、前年度に竣工した工事の中から、労働安全衛生への取り組みが優秀で無災害で竣工した工事を「安全部門表彰」、さらに、特に優秀かつ事業に対する貢献度が高い工事を「総合部門表彰」として表彰するものです。

今年度は、総合部門で(株)西山建設が、安全部門で坂口・水谷経常建設共同企業体、ケイコン(株)、日本基礎技術(株)の計4社が受賞されました。各社とも、川上ダムの無事故無災害(H17末、73,821時間)の継続や発生土運搬による一般車両優先や路面の汚れ防止等に努められました。

【副所長 青山太洋】



左写真：受賞請負者との記念撮影



右写真：工事請負者主催による地元幼稚園の現場見学の様子(H17.11.30)

# 地域の「安全・安心」を守る川上ダムをPR ～青山夏祭りにブースを出店～

7月22日(土)旧青山町の青山ホール前駐車場周辺において、第22回青山夏祭りが開催されました。川上ダム建設所では、地域の「安全・安心」を守る川上ダムを理解してもらうことを目的として、ブースを設置してパネルの展示を行いました。その際、お子さんにもわかりやすいように、クイズに答えてもらう形式にして理解しやすいよう配慮しました。「ダムの効用」、「不法投棄監視パトロールの実施」、「環境への配慮」などのパネルを紹介しましたが、多くの方が興味深くご覧になっていました。

その他、事業用地内の竹を使用した竹炭や川上ダムの広報チラシの配布、アートバルーンづくりを行い、来場者への広報に努めました。

【総務課 武村剛泰】



パネルの説明をする職員



広報チラシなどを配布する職員



竹炭づくりの作業風景

## 現場見学～『青山を知ろうハイキング』～



道路工事現場を歩く参加者の皆さん

6月25日(日)桐ヶ丘自治会健康部会の皆様、お子さんを含めて約50名の方が、『青山町を知ろうハイキング』の一環で川上ダムの現場見学にお越し下さいました。

まず、県道松阪青山線付替工事の現場を桐ヶ丘団地側から上流へ900mほど歩いていただき、橋梁の設置予定箇所などをご覧いただいた後に、桐の木にある延長500mほどの工事用道路を歩いて現県道まで約70mの標高差を降りていただきました。そこからは川上川に沿って900mほど下流に向かい、前深瀬川との合流点近くのダムサイトが望める場所で、川上ダムの事業計画についての説明を聞いていただきました。【副所長 光楽英生】

### 新連載

## ちよつとオオサンショウウオ！

オオサンショウウオは日本固有種で、大きいものは体長が1mを超える世界最大の両生類です。オオサンショウウオの生息地は岐阜県以西で、主に西日本・四国・九州の山地の溪流に分布しており、この前深瀬川流域にも生息しています。

オオサンショウウオは、漢字で「大山椒魚」と書きます。なぜ、このような名前が付いたのでしょうか？ 大山椒魚の頭にはたくさんのイボがあって、興奮したときや威嚇するときはこのイボからぬるぬるした液を出しますが、この液が山椒のにおいがすることから、名前が付けたと言われていました。また、むかしむかし、大山椒魚を食べた人がいて、大山椒魚のお腹を裂いたとたんに、山椒の匂いがまわりに広がり、家全体が山椒の香りに包まれてしまったそうです。もしかしたら、そんなところから、付けられた名前なのかもしれません。ちなみに、オオサンショウウオは、山椒を食べているわけではなくて、小魚やサワガニ、カエル、水生昆虫などを食べます。(つづく)



オオサンショウウオ

【環境課長 大村朋広】

## 川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線4号橋上部工工事

川上ダム建設事業に係る付替県道松青線工事で阿保地区の谷部に架かる橋の上部工工事についてご紹介します。この工事は、橋を支える橋台、橋脚の上に実際に車が走る道路を造ります。

この橋は、長さ107m、道路幅7.5mの鋼製の橋で、付替県道松青線で2番目に長い橋です。施工方法は、工場で製作した桁を現地をつなぎ合わせ、下流から谷を渡って上流まで押し出す「送出し工法」にて施工します。

現在の進捗状況は、設計内容の確認がほぼ終了し、使用する鋼材等の材料を発注しています。現地での施工の開始は、上流側の橋台の施工が終了する12月頃で、完成予定は平成19年7月になります。詳しい工法等の説明は現地でも行う予定ですので、たくさんのお見学をお待ちしています。



4号橋完成予想図

【工事課 田中幸志】

### 連載企画

## 創作『阿保千方湖物語』

《第 話 藤原千方の国づくり》

それから数百年後の阿保の里。

藤原千方という一人の豪族が現れ、大陸からの渡来文化である製鉄技術と農耕文化を取り入れ、里をたいそう豊かに栄えさせました。鉄の農耕機具を使って米や野菜の収穫量を増やしたり、鉄の工具で水路を開き、ため池を造って水を蓄え、農耕や暮らしを安定させました。

また千方には、四天王と呼ばれた優秀な家来がいました。米作りや産業、経済に詳しい『金天王』、河川や道路など国づくりが得意な『水天王』、文化や教育に優れた『風天王』、さまざまな情報に通じた『稔形天王』です。それぞれの才能を活かして千方を支え、ともに阿保の里をすばらしい国に造り上げていたのです。

阿保の里は、美しい自然の宝庫でもありました。特に、吉野の桜に劣らず見事な『さくら山』と、たおやかな『女竹』の群生は里の自慢で、女竹で作った笛はえも言われぬ清らかな音を奏で、阿保の笛は古くから朝廷へ献上されていたとも言われています。千方は、そのさくら山と、女竹をこよなく愛した風流人でした。

また、武術に優れた豪勇な人物でもあり、大きな化け猫を退治したときに大岩ごと真つ二つにしたという逸話も残っています。心優しく、阿保の里を守り栄えさせる千方を、人々は「息速別の命の生まれ変わりしお方」と慕ったことでした。（つづく）



〔川上ダム建設所編集〕

## EVENT

### 第6回 河川環境フェスティバル

日時 / 8月19日(土)

場所 / 伊賀市青山支所北側木津川河川敷  
(伊賀市阿保)

イベント / アユのつかみどり

(参加費 100円、お皿・お茶などは各自持参)

環境パネル展示(青山公民館ロビー、8/16~22日)

問い合わせ / 伊賀市青山支所 生活環境課

### 編集後記

夏の広報イベントの先陣を切って地元の青山夏祭りに参加しました。今後も8月にかけてイベントにおいて広報を行っていきます。

〔広報誌発行事務局〕

編集長 恒吉 徹(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

〃 北牧 正之(工務課長)

通信記者 武村 剛泰(総務課)

〃 立石 浩行(調査設計課)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。